DENON

AV サラウンドレシーバー

AVR-3312

簡単セットアップガイド

7.1チャンネルホームシアターシステムの設置/接続/設定方法を簡単に説明しています。

☞ CD-ROM

- 本製品のすべての操作方法を説明しています。
  詳しい操作方法は、付属の CD-ROM 取扱説明書をパソコンでご覧ください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前に「簡単セットアップガイド」と「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。詳しくは、保証書の裏面をご覧ください。
- 当社は、環境保全のためにペーパーレス化を推進しております。ご協力とご理解に感謝致します。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で
表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない
本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない
機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ネジを外したり、分解や改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら
機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない
使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない
こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意　禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施　禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施　禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

本書について

この取扱説明書では、製品を梱包箱から取り出してからすぐにおこなっていただくセットアップウィザードについて説明をしています。
セットアップウィザードではスピーカーはもちろん、各種機器の接続や設定、ネットワーク機能をお楽しみいただくための接続や設定を、テレビ画面に表示するガイダンスを見ながら誰にでも簡単におこなっていただくことができます。

❑操作説明のボタンについて

本書の操作説明は、リモコンの操作ボタンをメインに説明しています。

❑マークについて

☞ このマークは、関連情報を記載している参照先のページをあらわします。

このマークは、付属の CD-ROM 取扱説明書の記載項目をあらわします。

このマークは、補足説明や操作上のアドバイスをあらわします。

ご注意 このマークは、操作時に留意していただきたい注意点や、機能の制約などをあらわします。

❑CD-ROM について（簡単セットアップガイド / 取扱説明書）

Get ADOBE® READER®

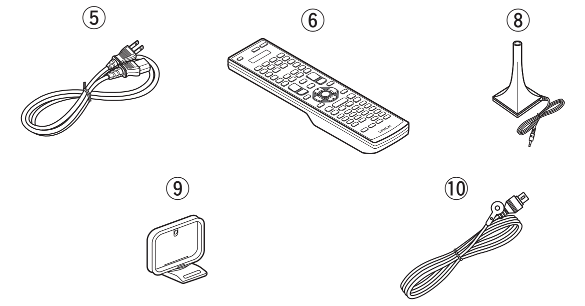
付属の CD-ROM 取扱説明書をご覧になるためには、Adobe Reader® が必要です。
CD-ROM のメニュー画面にある Adobe Reader® のバナーをクリックして、最新版の Adobe Reader® をダウンロードしてください（Windows 用）。
ダウンロードするためには、インターネット接続の環境が必要です。

付属の CD-ROM 取扱説明書表紙にある ? マークをクリックすると、マーク操作の説明画面一覧を表示します。CD-ROM 取扱説明書をご覧になる前にご確認ください。

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

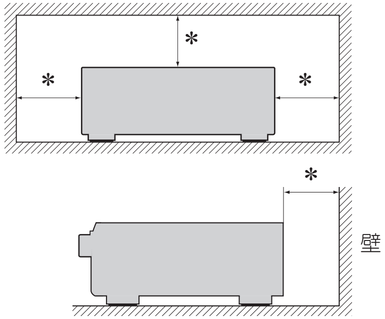
① 簡単セットアップガイド	1
② CD-ROM（取扱説明書）	1
③ 保証書（梱包箱に貼り付けています）	1
④ 製品のご相談と修理･サービス窓口のご案内	1
⑤ 電源コード【本機専用】	1
⑥ リモコン（RC-1156）	1
⑦ 単3形乾電池	2
⑧ セットアップマイク（DM-A409）	1
⑨ AMループアンテナ	1
⑩ FM室内アンテナ	1



使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。



＊30cm 以上

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット



- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

セットアップウィザードの準備

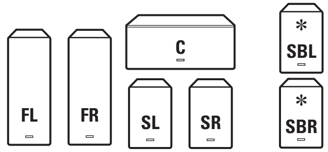
ここではセットアップウィザードをはじめる前の準備をします。

❑ **この準備が終わるまで、本機の電源プラグをコンセントに差し込まないでください。**

❑ **本機へのスピーカーの接続は、セットアップウィザードでおこないます。まだ接続しないでください。**

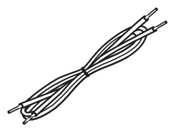
この手順で必要なもの

スピーカー（別売り）



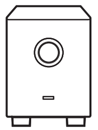
＊ 5.1 チャンネルでお楽しみいただく場合は、サラウンドバックスピーカーは使用しません。

スピーカーケーブル（別売り）

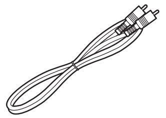


• お使いになるスピーカーの本数分をご用意ください。

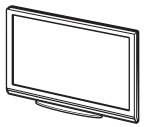
サブウーハー（別売り）
（アンプ内蔵サブウーハー）



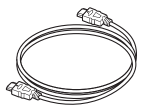
オーディオケーブル
（別売り）



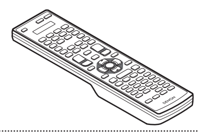
テレビ（別売り）



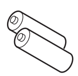
HDMI ケーブル（別売り）



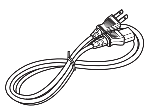
リモコン（付属）



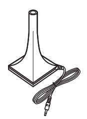
単 3 形乾電池（付属）



電源コード（付属）



セットアップマイク（付属）

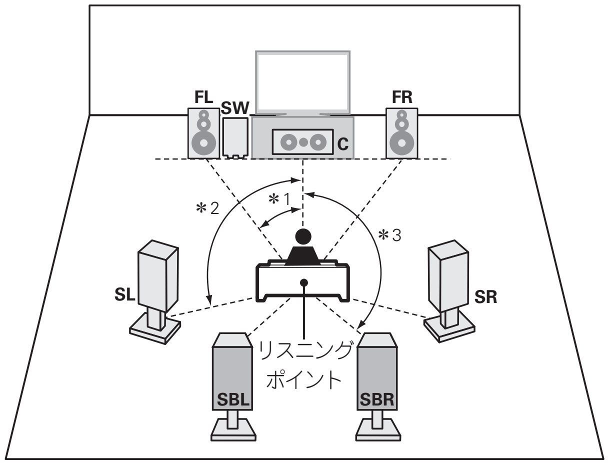


1 スピーカーを設置する

あらかじめ、スピーカーにスピーカーケーブルを接続しておいてください。
接続のしかたは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

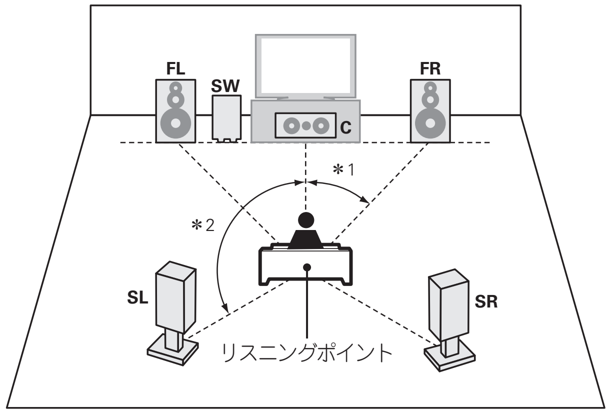
✎ 本機へのスピーカーケーブルの接続は、セットアップウィザードでおこないます。

❑ 7.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）を設置するとき



＊1 22°～30°　＊2 90°～110°　＊3 135°～150°

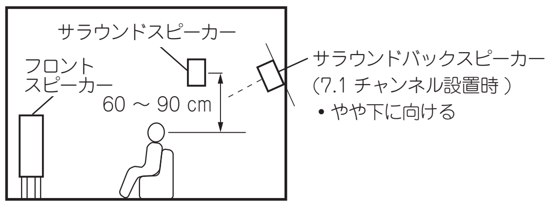
❑ 5.1 チャンネルを設置するとき



＊1 22°～30°　＊2 120°

FL	フロントスピーカー（左）
FR	フロントスピーカー（右）
C	センタースピーカー
SW	サブウーハー
SL	サラウンドスピーカー（左）
SR	サラウンドスピーカー（右）
SBL	サラウンドバックスピーカー（左）
SBR	サラウンドバックスピーカー（右）

• サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60 ～ 90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

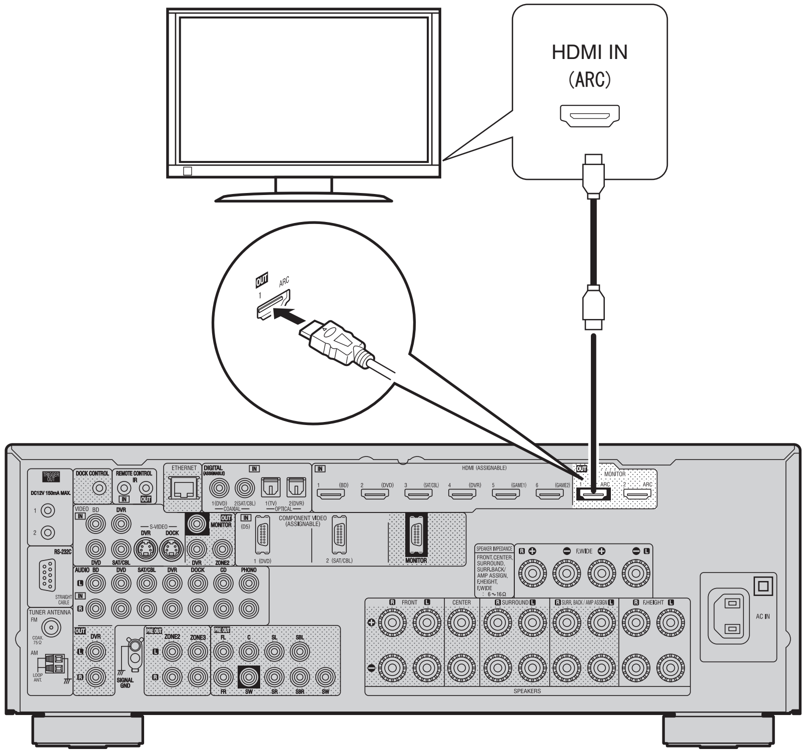


【側面から見た図】

2 HDMI ケーブル（別売り）で本機とテレビを接続する

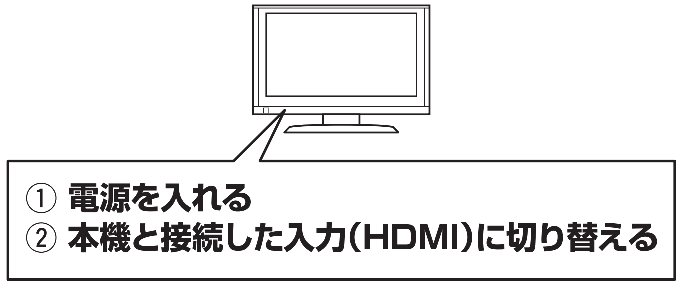
ご注意

本機と HDMI ケーブル以外で接続しているときは、セットアップウィザードを表示しません。



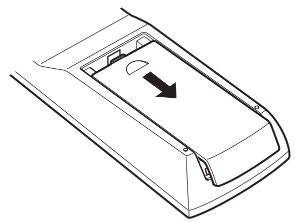
3 テレビの電源をオンにし、映像入力を本機の入力（HDMI 入力）に切り替える

テレビの操作のしかたは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

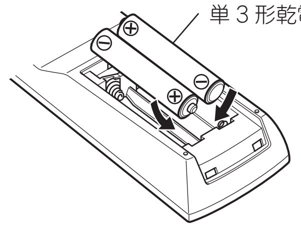


4 付属のリモコンに付属の電池を入れる

① 裏ぶたを矢印の方法へスライドさせて取り外す。



② 乾電池（2本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



③ 裏ぶたを元通りにする。

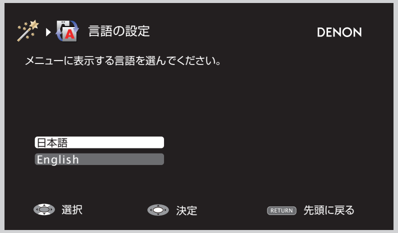
☞ セットアップウィザードは次のページからはじまります。

セットアップウィザード

準備が完了したら、セットアップウィザードをはじめましょう。
セットアップウィザードでは、次の手順で接続や設定をおこないます。画面の指示に従って操作してください。
必要に応じて、各設定項目でスキップしたり中止したりすることもできます。

1 言語の選択

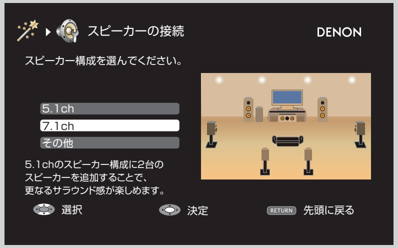
テレビ画面に表示する文章の言語を設定します。



セットアップウィザードで設定した後でも、メニューの"言語の設定"（☞◎ 120 ページ）で設定を変更できます。

2 スピーカーの接続

サラウンド再生のためのスピーカーの接続をします。



ご注意

7.1 チャンネルおよび 5.1 チャンネル以外のスピーカー接続は、セットアップウィザードでは設定できません。
"その他"を選んで、"2. スピーカーの接続"⇨"スキップ"を選び、"3. スピーカーの設定"に進んでください。（設定方法は ◎ 60 ページ「スピーカーを設置 / 接続 / 設定する（応用接続）」をご覧ください。）

3 スピーカーの設定

お使いになるスピーカーやお部屋に最適なサラウンド音響の設定をおこないます。



セットアップウィザードで設定した後でも、"スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）"（☞◎ 24 ページ）で設定を変更できます。

4 ソースの設定

接続する機器ごとに接続する端子を設定し、接続します。



セットアップウィザードで設定した後でも、メニューの"入力端子の割り当て"（☞◎ 92 ページ）で設定を変更できます。

5 リモコンの設定

本機に付属のリモコンで、本機に接続した機器を操作できるように設定します。



セットアップウィザードで設定した後でも、メニューの"リモコン設定ガイド"（☞◎ 117 ページ）で設定を変更できます。

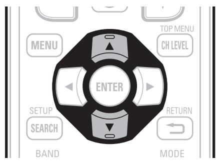
6 ネットワークの設定

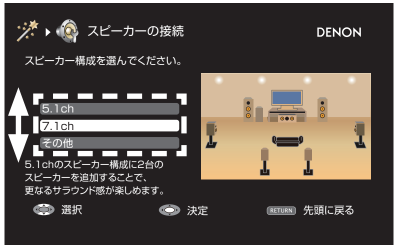
パソコンに保存している音楽ファイルやインターネットラジオを再生できるように設定します。



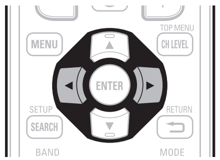
セットアップウィザードで設定したあとでも、メニューの"ネットワーク設定"（☞◎ 112 ページ）で設定を変更できます。

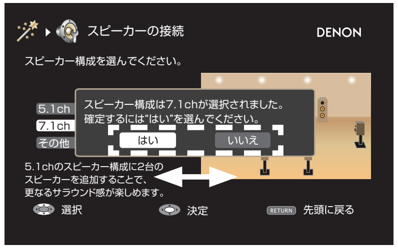
以上でセットアップウィザードは終了です。



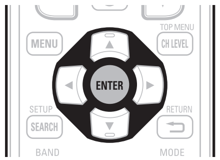


△▽ で設定したい項目に移動する。



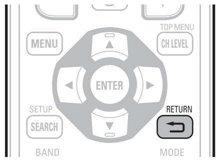


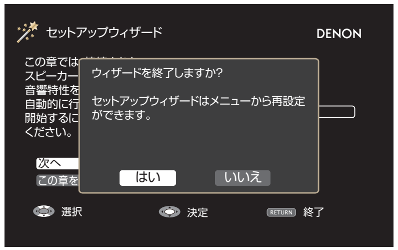
◁ ▷ で設定したい項目に移動する。





ENTER で選択を確定する。

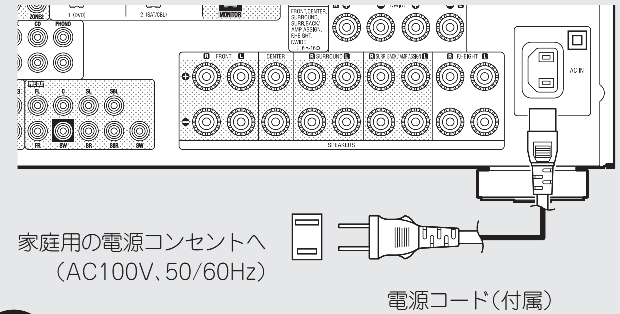




RETURN⮌ で各設定の先頭に戻る、または セットアップウィザードを中止する。

はじめましょう

1 本機の電源プラグをコンセントに差し込む。



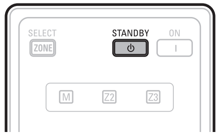
2 ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを Ⓜ（メインゾーン）に切り替える。



- **セットアップウィザードは、リモコンをメインゾーンの設定にしてからおこなってください。**
- このリモコンは、メインゾーン、ゾーン 2、ゾーン 3 を別々に操作できます。

電源をスタンバイ状態にするとき

STANDBY (⏻) を押す。



【 スタンバイ時の電源表示 】

- 通常スタンバイ時 : 消灯
- メニューの"HDMI コントロール"–"コントロール"(☞ 109 ページ) ⇨"オン" : 赤色
- メニューの"ネットワークスタンバイ"(☞ 114 ページ) ⇨"オン" : 赤色

ご注意

電源がスタンバイ状態のときは、微量な電力を消費します。すべての電力を完全に遮断するときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

3 AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

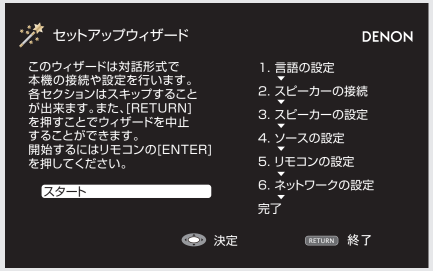


- このリモコンは接続した機器を操作できるプリセットリモコンです。

4 ON (I) を押して、本機の電源を入れる。

電源がオンになり、テレビにセットアップウィザードのスタート画面を表示します。





5 ENTER を押す。

セットアップウィザードがはじまります。

セットアップウィザードがはじまりました。
画面の指示に従って操作してください。

✎ セットアップウィザード終了後、再びセットアップウィザードを実施するときは、メニューの"セットアップウィザード"を選んでください(☞ 85 ページ "メニュー 一覧")。

❑スピーカーを接続する

セットアップウィザードの“2. スピーカーの接続” でスピーカーの接続をおこないますが、セットアップウィザードをおこなわなかったり、セットアップウィザードを中止した場合は、次のように接続してください。

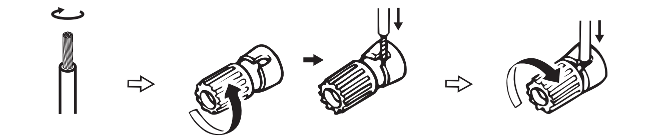
7.1 チャンネルおよび 5.1 チャンネル以外のスピーカーの接続については、◎ 62～67 ページをご覧ください。

接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

スピーカーケーブルを接続する

スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

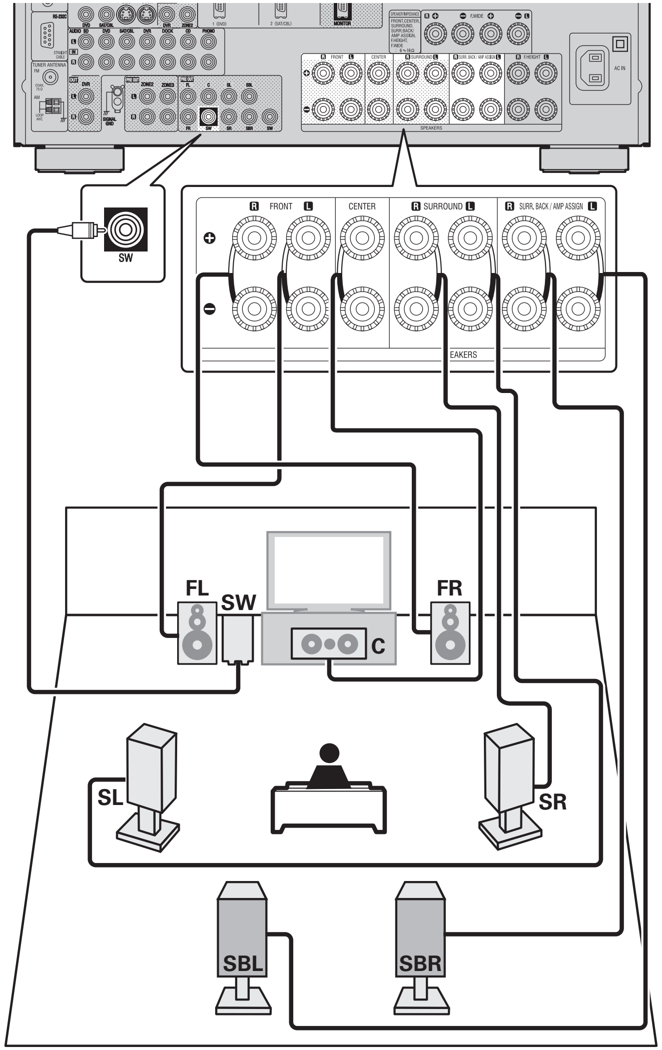


ご注意

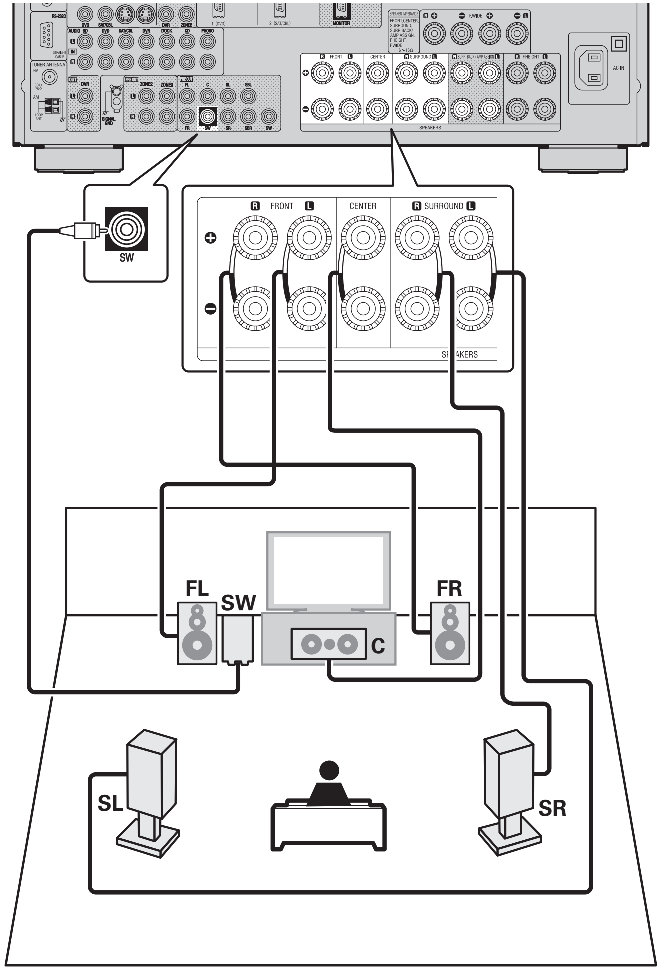
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやネジに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します (☞◎ 148 ページ「保護回路」)。
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、セットアップウィザード中は、セットアップウィザードの指示に従って接続してください。(セットアップウィザード中、スピーカー端子は通電しません。)
- 次のインピーダンスのスピーカーをご使用ください。

ご使用になるスピーカー端子	スピーカーインピーダンス
FRONT	6～16 Ω
CENTER	
SURROUND	
SURR. BACK / AMP ASSIGN	

7.1 チャンネル



5.1 チャンネル



再生のしかた（基本操作）

ここでは基本的な操作方法について説明します。詳細は、付属の CD-ROM（取扱説明書）をご覧ください。

- ❑ **再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。**
- ❑ **再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。**

入力ソースを選ぶ

再生する入力ソース選択ボタン（BD、SAT/CBL、TV、NET/USB、DVD、V.AUX、DOCK、TUNER、GAME1、GAME2、DVR、CD または PHONO）を押す。
入力ソースをダイレクトに選べます。



以下の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

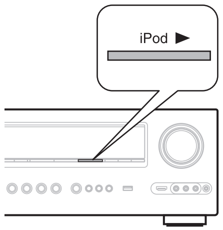
本体で操作する

SOURCE SELECT を回す。

- **SOURCE SELECT** を回すと、入力ソースが次の順序で切り替わります。

→ TUNER ↔ PHONO ↔ CD ↔ BD ↔ DVD ↔ TV ↔ SAT/CBL ←
→ NET/USB ↔ DOCK ↔ V.AUX ↔ GAME2 ↔ GAME1 ↔ DVR ←

- **iPod ▶** を押すと、本機の入力ソースが“DOCK”または“NET/USB”に切り替わり、接続されている iPod を自動的に再生します（☞◎ 37 ページ「iPod 再生機能」）。



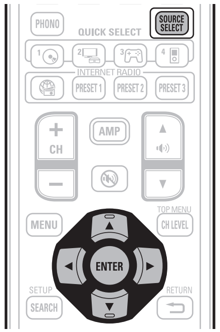
“ソース選択”メニューを使用する

リモコンは、Ⓜ（メインゾーン）に切り替えて操作してください（☞◎ 122 ページ「接続機器を操作する」）。
リモコンが Z2（ゾーン 2）または Z3（ゾーン 3）モードのときは、**SOURCE SELECT** を押しても“ソース選択”メニューは表示されません。



❶ **入力ソース**
ハイライト表示されている入力ソース名を表示します。
❷ **履歴**
最近使用した入力ソースの履歴を 5 つまで表示します。
❸ **各カテゴリーの入力ソースのアイコンを表示します。**

① **SOURCE SELECT**を押す。
“ソース選択”メニューを表示します。
② △▽◁ ▷を押して入力ソースを選び、**ENTER**を押す。
入力ソースを確定し、“ソース選択”メニューを終了します。



✎

- 本機の USB 端子に接続している iPod を入力ソースに選ぶときは“ (USB/iPod)”を選んでください。
- 使用しない入力ソースを設定すると、その入力ソースを表示しません。“使用ソースの選択”（☞◎ 116 ページ）で設定してください。
- 入力ソースを選ばずに“ソース選択”メニューを終了させる場合は、もう一度 **SOURCE SELECT** を押してください。
- **SOURCE SELECT** を押すと、自動的にアンプ操作モードに移行します（☞◎ 122 ページ）。

主音量を調節する



▲▼ を押して、音量を調節する。

- メニューの“音量表示”（☞ 116 ページ）の設定により、音量の表示値が異なります。

❑ **“音量表示”の設定（☞ 116 ページ）が“相対値”のとき**

【 調節できる範囲 】 - - -　-80.5dB ～18.0dB

❑ **“音量表示”の設定（☞ 116 ページ）が“絶対値”のとき**

【 調節できる範囲 】 0.0 ～ 99.0

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

✎

本体の **MASTER VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

一時的に音を消す（ミューティング）



を押す。

- 電源表示が緑色で点滅します。
- ディスプレイの“MUTE”表示が点灯します。
- テレビ画面に、を表示します。

✎

- メニューの“ミューティングレベル”（☞ 116 ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。
- ミューティングを解除するときは、もう一度 を押してください。主音量を調節しても解除できます。

その他の操作

付属のCD-ROM（取扱説明書）の次の項目をご覧ください。

❑ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する（☞ 33 ページ）

❑CD プレーヤーを再生する（☞ 33 ページ）

❑iPod® を再生する（☞ 34 ページ）

❑ラジオ放送局を受信する（☞ 38 ページ）

❑ネットワークオーディオを再生する（☞ 41 ページ）

❑USB メモリーを再生する（☞ 50 ページ）

❑リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）（☞ 53 ページ）

❑便利な機能（☞ 71 ページ）

❑ゾーン 2/ ゾーン 3（別の部屋）での再生（☞ 82 ページ）

❑詳細設定のしかた（☞ 85 ページ）

❑リモコンで接続機器を操作する（☞ 122 ページ）

以上が基本的な設定や操作です。
設定を変更するときや詳しい操作の説明は、付属の CD-ROM(取扱説明書) をご覧ください。

HDMI コントロール機能を設定する

セットアップウィザードの“ソースの設定”で、“HDMI (ARC)”を選択すると、自動的に HDMI コントロール機能が有効になります。
ここでは HDMI コントロール機能について説明します。詳細は、付属の CD-ROM(取扱説明書) をご覧ください。

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

HDMI コントロールでできること

❏ **テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。**

❏ **テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。**
テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。

❏ **テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。**

❏ **テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。**

❏ **プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。**

❏ **本機の入力ソースを“TV”にすると、テレビの音声を本機で再生できます（☞◎ 10 ページ「ARC（Audio Return Channel）機能について」）。**

❏ **メニューの“HDMI コントロール”–“コントロール”（☞◎ 109 ページ）を“オン”に設定している場合、本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します（パススルー機能）。**

✎

- ARC 機能に対応していないテレビの音声を本機で再生する場合は、光デジタル接続をしてください（☞◎ 13 ページ）。
- パススルー機能を使用するには、HDMI コントロール対応の HDMI 接続機器を接続してください。

設定のしかた

1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。
メニューの“HDMI コントロール”–“コントロール”（☞◎ 109 ページ）を“オン”に設定してください。
- セットアップウィザードの“ソースの設定”（☞ 8 ページ）で、“HDMI (ARC)”を選択した場合は、この操作は不要です。

2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。

5 本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るか確認する。

6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

✎

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。
- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの“HDMI コントロール”–“コントロール”（☞◎ 109 ページ）が“オン”になっているか。
- メニューの“パワーオフコントロール”設定（☞◎ 110 ページ）が“全て”または“ビデオ”になっているか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

ご注意

- **メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの“パワーオフコントロール”（☞◎ 110 ページ）を“オフ”に設定している場合は、接続している機器の電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- HDMI 機器の接続を追加するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。このような場合は設定をやり直してください。
- メニューの“HDMI コントロール”–“コントロール”（☞◎ 109 ページ）を“オン”に設定している場合は、“入力端子の割り当て”（☞◎ 92 ページ）の設定で“TV”に HDMI 端子を割り当てることはできません。
- 以下の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2、3 をおこなってください。
  - メニューの“入力端子の割り当て”⇨“HDMI”設定（☞◎ 92 ページ）の変更
  - HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

DENON

デノンお客様相談センター

☎ 044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

〒210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル 3F

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	**電話（　　－　　－　　）**
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

Printed in China　5421 10068 001D